## 黙想:平和の聖マリア属人区教会献堂記念(5月2日)

黙想のテーマ:「神は私たちのただ中に住まわれる」「生きた石となる」「教会を築き上げる」

神は私たちのただ中に住まわれる

生きた石となる

教会を築き上げる

使徒憲章「Ut sit」によってオプス・デイは属人区となり、それに伴い、平和の聖マリア聖堂が、聖ヨハネ・パウロ二世によって属人区教会として設置されました。そして1986年5月2日、福者アルバロ・デル・ポルティージョによって、献堂式が行われました。

聖ステファノは、大祭司の前で弁明する際、救いの歴史全体を語りながら、「いと高き方は、人間の手で建てられた家には住まわれない」と述べました。 そして、預言者ホセアの言葉を引用してこう続けました。

三葉を切用してこう続けました。 「主は言われる。『天はわたしの王 座、地はわたしの足台。お前たち は、わたしにどんな家を建ててくれ るというのか。わたしの憩う場所て どこにあるのか。これらはすべて、 わたしの手が造ったものではない か』」(使徒7・48-50)。この時代、 もかかわらず、ソロモン王の時代、 神は人々にご自身のための家、エル サレム神殿を建てることを許されました。教会は常に、神殿をキリストの至聖なる人性(すなわち神性の口は、満が肉体的に宿る真の神殿 [コロレイ2・9参照])のイメージと見なの中でありました。そしてエルサレムのりました。なぜなら、個々の教会の先取りでありました。なぜなら、一つの教会の中心、すなわち聖櫃によられるからです。

平和の聖マリア属人区教会をはじめ、各教会は霊的なよりどころらす。そこでは聖櫃に秘跡的にだらいる主が「昼も私たちのただみもし」を力まっており、「本社を照り」ではまれます(ヨハネ1・14参照)「中が聖櫃にもないまる決心をは、私たちのとし、私たちのとし、私たちのとし、私たちのとした。を効果あるものとするためでした。

イエスは、同時に種蒔き人であり、 種、そして種蒔きの結実、つまり永 遠の生命のパンでもあります」[2]。

神性のまことの神殿であるキリストのからだを守ることに加えて、見えんで見れた目に見ない。 教会は、洗礼を受けた石」は、 大石、選ばれた石」は、のししるが 下成する、私たちの主は、「のもれ、希望によって強め合れ、 を望によって強められ、 を望によって強め会によって をがしている。 を対している。 を対している。 を対している。 を対している。 を対している。 を対している。 を対している。 でいる。 でいる。 でいたのです。

それゆえ私たちは、日々の生活の中で、「人々からは見捨てられたが、神にとっては選ばれた、尊い、生きた石」(1ペトロ2・4)であるキリストに、自分自身を一致させる必要があるのです。聖アウグスティヌスは

の適切な自律性を尊重しながら、観想的な精神と愛をもって生活します」では、福者アルバロは献堂式の説教の中で強調しました。「私たちには何の功徳もないのに、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なるために神によって選ばれまる民となるために神によって選ばれたで、私たちを闇から光へと呼ばれた神の不思議な業を宣べ伝えるためです」で、

教会がカトリックであるのは、地上 のすべての男女のために、イエスか ら遣わされたからです。 第二バチカ ン公会議は、主の命令を次の人がこ 表現しています。 「すべての人が、 神の新しい民に加わるように招かれ ている。したがって、この民は、が ー、唯一のものとして存続しなが ら、全世界に向かって、またあらゆ る時代を通して広められるはずのものである」図。

福者アルバロは、献堂式の説教を次 のように締めくくりました。「主 は、人間社会のただ中において、ご 自身の教会を築くために、日々、私 たちを生きた石として活用されるこ とでしょう (…)。私たちの小ささ にもかかわらず、神のいつくしみに よって、私たちは、親の隅石である キリスト・イエスに支えられて、ま た教会の土台の強い岩であるペトロ 一つまりローマ教皇一に支えられ て、他の人々の力となるのです」 gg。 キリスト者にとって、主に忠実 であるとは、教会に忠実であること を指し、したがって、教皇の良い子 どもであることを意味します。 聖ホ セマリアは1928年から、オプス・デ イが非常に「ローマ的」であり、ペ トロの使徒座と緊密に一致し、キリ ストの温もりを世界の隅々まで届け

るという同じ願いを、分かち合うことを望んでいました。

私たちは、教会に奉仕する願いを、 平和の聖母の執り成しに委ねること ができます。そして、私たちの霊魂 と全世界のために、平和の賜物を聖 母に求めることもできます。「母マ リアよ、わたしたちの願いを聞き入 れてください (…)。『ほとばしる 希望の泉』であるマリアよ、渇いた わたしたちの心を潤してください。 人類をイエスに織り込んだマリア よ、わたしたちを、交わりを作り出 す者としてください。わたしたちの 道を歩まれたマリアよ、平和の道へ と導いてくださいしாの。

[1] 聖パウロ6世『ミステリウム・フィデイ』8番。福者アルバロ・デル・ポルティージョ、説教、1986年5月2日参照。

- [2] 聖ホセマリア『知識の香』151 番。
- [3] ローマ・ミサ典書、教会献堂のミサ(献堂教会外)、集会祈願。
- [4] 聖アウグスティヌス、説教337。
- [5] 同。
- [6] 聖ホセマリア『会見集』22番。
- [7] 福者アルバロ・デル・ポル ティージョ、説教、1986年5月2日。
- [8] 第二バチカン公会議『教会憲章』13番。
- [9] 福者アルバロ・デル・ポル ティージョ、説教、1986年5月2日。
- [10] フランシスコ、ロシアとウクライナをマリアの汚れなきみ心に奉献する祈り、2022年3月25日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-zokujinku-kyoukai-kendou/(2025/12/11)